

研修を通じて

女性同士の交流さらに深まる！

大山町女性団体研修会

大山町女性団体連絡協議会が、2月25日に保健福祉センターだいで研修会を行いました。100人以上の会員が参加しました。

同協議会は会員同士の交流を深めようと、研修会を毎年開催しています。

午前は、米子市淀江公民館館長の國頭徹夫さんを講師に「一人をかたちづくる」と題して、講演を行いました。大山西小、名和小学校の校長でもあった國頭さんの楽しいお

しゃべりと歌を交えた講演は参加者に好評でした。

午後からは「チエアエクササイズ」「音読教室」「素敵な自分の魅せ方プロデュース」の3つの中からコースを選んで体験。その後、お茶を飲みながら日本女性会議の報告や意見交換を行いました。

講演、体験活動、意見交換と充実した一日を過ごし、参加者同士の交流も深まりました。



▲大山町とつながりの深い國頭さん。生ギターで熱唱！

まちのたから (25) 文化財室通信

大山寺阿弥陀堂の巻

今月は重要文化財「大山寺阿弥陀堂」をご紹介します。

大山寺阿弥陀堂は室町時代末期の天文21(1552)年に建立された西明院谷の中心となる建物で、大山寺境内に現存する最古の建造物です。

平面5間(約11メートル)、四方の正方形で造られており、縁端では7間(約14メートル)四方です。頂部が地面

から高さ7メートルとなる屋根は柿葺の宝形造となつています。堂正面の向拝は、寛政7(1795)年に大工棟梁の戸田源七によって加えられた江戸時代の建築です。

棟札には、享禄2(1529)年に常行堂が被災し、敷地を新たに造成し(現在地)、常行堂の古材も用いて建立されたことが記されています。堂内には以前ご紹介した「木造阿弥陀如来及両脇侍像」(重要文化財)が安置されていま

す。その配置や建物の構造などから、阿弥陀堂と常行堂の

両面の性格があつたようであり、近世後期の絵図には「常行堂」、明治3年の絵図では「阿弥陀堂」と記されています。明治37年2月18日

に国の重要文化財に指定されました。

この阿弥陀堂は大山寺境内はもちろん大山町内で現存する最古の建造物として、とても貴重な文化財です。

近年では、平成7年度に大きな修理が行われました。前回の修理からおよそ20年経過し、屋根の傷みの状況から、葺き替えの時期を迎えています。縁側などの木部もあわせて修理が必要な状態になつ

てきたことから、平成29年度には本格的に修理事業に取り組まれます。

数十年に一度のことですので、可能であれば、修理中に特別公開など見学の機会を持ちたいと考えています。(人権・社会教育課文化財室)



▲大山寺阿弥陀堂